

た ち ば な 新 聞

春のお彼岸 二十日お中日

三月十七日(土)〜二十三日(金)

三枚の絵

昨年、あきる野市在住の、日本美術院研究会員の新田繁夫氏が突然お寺を訪ねて来られ、『家内が存命中に身延山久遠寺を参拝したおり、「菩提燈を登る僧二人」を描いた。その作品を身延山に奉納させてもらえば、亡き妻も喜んでくれるのではないかと。突然では失礼なので連絡を取って欲しい。』と依頼され、『その作品はたまたしん本店のギャラリーで「新田繁夫日本画展」に出品してあるのでお時間があれば是非見て欲しい。』とのことだった。

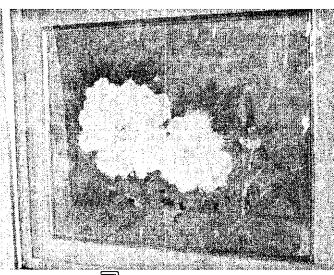
早速、身延山久遠寺の総務の井上瑞雄上人に連絡したところ、個展に秘書の方がお見えになった。私も個展で作品を拝見した。厳かな雰囲気の見事な日本画だった。総務の井上瑞雄上人が直接受け取りたいとのこと、日程に合わせて新田氏と私と運転手の三人で久遠寺までお届けした。

日蓮聖人 遺訓(二十九)

「我が頭は父母の頭、我が足は父母の足たとえは種子と菓子と身と影の如し」
(忘持経事)

我々は偶然この世に生まれたものではない。父母と子の関係も偶然のものではない。そこには切っても切れない繋がりがあふれている。この事を改めて確認する必要がある。この事を改めて確認する必要がある。この事を改めて確認する必要がある。

井上瑞雄上人は絵の見事さと新田氏の妻の菩提燈を弔うため身延の山に納めたいとの心ざしを大変喜ばれ、修行僧が菩提燈を登る姿でもあり、身延山学園に飾って頂いた。個展も終わり落ち着いた頃、新田氏が妻に対し大変良い供養が出来たと喜ばれ、御札にと一枚の『白ぼたん』の絵を奉納された。当山は日蓮聖



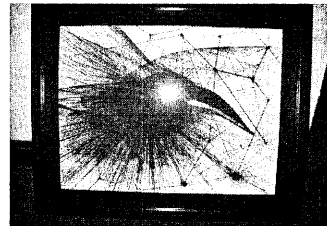
山は日蓮聖人と四天王の銅像の周辺に八種類十六本のぼたんが植えてあり、開花の時期には大勢の花見の方が訪れる寺でもあるので、本堂に飾らせて頂いた。

住職ひと口法話(第二十九話)

ることになった。その間、随分多くの遺産分割事件を担当した。「人生の最期は自分の意志に沿ったものにした」とは誰しもが思う。自分の残りの人生・家族・財産・葬儀など、自分らしい終末を迎えるために何をすれば良いかを考え、「遺言書」を書く人が増えているそうだ。最近、遺言書の書式と具体的な書き方の冊子をセットした「遺言書キット」が発売され、人気があるようだ。調停では「遺言書」そのものが有効か無効かで争われたりするケースがある。「財産分与は遺言状に書いてあれば絶対」とか「子どもがいなくても財産はすべて妻が相続する」などの思い込みは間違いのもとだ。まず、「遺言書」とタイトルを入れ、全文を自筆で書き、作成した日付と本人の署名と押印がなければだめで、紙はメモ用紙でも良いがワープロやパソコンで作って印刷したものや代筆されたものは不採用となる。相続の内容が複雑になりそうな場合は「公正証書遺言」を作ると言う手もあるが、「公正証書遺言」は、相続額などに応じた作成費用が掛かり公証人の他に二人の証人が必要になる。また、遺言書に書かれたことがすべて実行されると思い込むのは早計だ。「すべて長男に相続させる」と遺言を残しても、ほかの相続人が異議を申し立てれば遺留分が法的に守られているからだ。何故その相続内容にしたのか遺言書の最後にきちんと記しておくことも大切だ。遺言書を書くことで気持ちの整理が出来て、残された人生を精一杯生きる力が湧いて来るかも知れません。



また、大学の同窓生でもある練馬本照寺の境野哲秀住職が代表となつて、第二次世界大戦・インパール作戦時にタイ国で祖国への帰還を夢見て果たせず、現地で亡くなった多くの日本兵や現地のみなさんや戦った各国の方々の御霊を奉る慰霊碑をタイ国クンナムに建設を計画し、昨年十二月に盛大な竣工式が行われた。私も相談に預かり会合に参加させて頂いたこともあり、慰霊碑には顧問として私の名前も刻まれている。境野住職は上野の森美術館で開催された「近代美術展」に出品される程のことで案内状を置いて行かれた。望月一雄氏は現在、旺玄会理事・常任委員・「翔の会」(彩友会)の油絵教室の講師をされている。



また、お檀家の望月一雄氏が奥様と墓参された折、銀座の画廊で個展を開かれることになりました。望月一雄氏は現在、旺玄会理事・常任委員・「翔の会」(彩友会)の油絵教室の講師をされている。

水谷 實清寺

橘 墓苑
水谷 蓮堂
睡蓮 庵
たちばな会館

ている。個展会場では、望月一雄ご夫妻が私と家内を迎えてくれた。望月一雄氏の絵は、両親の葬儀の折、画家であることを聞き、作品の写真を拝見したのが最初で、その時の「子供が塀に落書きをする後ろ姿」の作品は今も記憶に残っている。個展会場では、落書きと題する絵やチルチルミチルが教会の前で寄り添う姿を描いたもの、祈りと題する絵などどれも素晴らしい作品ばかりだった。中でも、『俺たちの地球』と題する、地球の上にコリラが果物を前にし笹を手に持ち宇宙を見据えている絵が印象的だった。



地球温暖化などの自然破壊を憂える姿を象徴的に描かれていて素晴らしいと思いきや求めた。

新田繁夫氏の『白ぼたん』は本堂に、境野哲秀上人の『ベケル鳥』と望月一雄氏の作品は、応接間に掛けさせて頂いている。昨年、手元に置かれた『三枚の絵』は私に、『今を大切に生き、人生を美しく完成させたい』という思いを強く抱かせてくれた。更に、絵を描かれるお檀家の小林初朗氏のごが気になった。小林初朗氏は定年後、仕事で封印していた『ヒロ』の絵を描き始め、毎年自作の『ヒロ』の絵を描いた年賀状を送ってくださる。見る度に心を和ませてくれる作品だ。今年の個展には是非足をはこびたいと思っている。座右に絵のある生活は心を癒し新たな刺激を与えてくれ、良いものだと思つた。

健康の話し

身延山久遠寺第十一世に修行院日朝聖人という方がいる。応永二十九年（一四二二）の生まれで、身延山久遠寺の中興といわれ、日蓮聖人のもと、身延山久遠寺の発展に貢献した。

また、博学の聖人としても有名だが眼病を患ったため、眼病守護の尊像をあらわし、法師功德品第十九を誦誦し、その功德を身に心に刻み、その教えである「信心の功德力」を信じ、祈願してのちに平癒したことに、眼病で患う人々を救わんと、一心に祈念したため、眼病平癒の聖人として有名となった。

宝清寺は身延山久遠寺の末寺として日朝聖人と

そつである。

日朝聖人の時代は、まさに蛭雪時代であり夜遅くまで勉強に励んで目を悪くしたのであるが、時代は変われどあまり遅くまでテレビを見たこと、パソコンを長時間凝視するのも注意が必要だ。

冬は乾燥し、そのためにインフルエンザなどの病気が蔓延する季節でもあるが、今年はとくに乾燥度合いがきつ、「ドライアイ」になる方も多いようである。

「ドライアイ」とは瞬や眼球が乾燥してしまうことで、その摩擦で眼球を傷つけてしまいゴロゴロとした感じや、症状が重い場合は痛みを伴うようだ。予防策としては室内を乾燥から防ぐために加湿器を設置したり、目薬を点眼するのが効果的だ。

宝清寺の草花

宝清寺では、少人数での法事の会食や葬儀用として、水谷庵を用意している。その水谷庵の庭には、昨年紫陽花の木を

宝清寺では、少人数での法事の会食や葬儀用として、水谷庵を用意している。その水谷庵の庭には、昨年紫陽花の木を

多く植樹したので今年六月の見頃の時期が今から楽しみである。

ほかに馬酔木、梅、花木、辛夷、薔薇、ローズマリーや木瓜が植わっている。

木瓜は本来、早いものは二月頃、遅くとも四月

のであるが、木の六割程が咲いてしまった。

昨今、異常気象が原因で狂い咲きの報告を耳にするが、どうも私には一抹の心当たりがある。

昨年、紫陽花の植樹を多くしたと先にふれたが、その折りに早く根がつくように肥料や水を多くあげた、その脇に植わっているのが木瓜であることから、紫陽花と同様に世話をしすぎたことが要因かもしれない。

ことも手をやく両



管理料の振替の案内

平成二十四年度分の管理料納入の時期が近づいてまいりました。

管理料は前納（四月から翌年の三月）になっておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

●自動振替の方●

平成二十四年の管理料自動払い込みは、四月

二十五日（水）となっておりますので、日にちが近くなりましたら、残高をご確認くださいませますようご案内いたします。

●ご持参の方●

持参されて納められる方は、直接、管理事務所にご持参の上納めください。その際、必ず管理料領収書をお受け取りください。

●これから自動振替をご希望される方●

これから、自動払い込みを希望される方は、新たに手続きが必要です。

●多摩信用金庫で振込納入の方●

振込は、銀行に備え付けの「口座振込用紙」をご使用ください。

【振込先】
多摩信用金庫秋川支店
（口座番号）
普通預金 一五一六二四九

【名義】
宗教法人 宝清寺
代表役員 石井前珠

※※ご注意※※

現時点で、「郵便局自動払込手続」を申し込みますと、来年度（平成二十五年）からになり、本年度分（平成二十四年）

編集後記

住職に「人は二度死ぬ」と言われたことがある。一度目は身体的死であり、医師に死亡宣告をされた時の死である。二度目は、残された遺族が、亡くなった人を忘れてしまった時だと言われた。二度目の死は物理的なものではなく、心の

は払込ができません。本年度分を納入される方は、ご持参頂くか、または「多摩信用金庫」から振り込み頂けますようご案内申上げます。

一度目の死からほど遠くない時期に葬儀を行うのが普通であり、亡くなった方を想うに見送る儀式が葬儀である。遺族は、その儀式じゅうじゅうとなった方を心に刻む。その後、四十九日忌、一周忌、三回忌と徐々に間隔があいていき、亡き人への思いや悲しみの輪郭も鮮明さが薄れ、亡くなった時の衝撃も癒やされて来たことを自覚する。葬儀とは亡くなった方が主役ではあるが見送る側も大切な役割を担う責任があると思う。

宝清寺年中行事

三月	彼岸中日・塔婆供養
四月	八日・花祭
七月	十七日・盂蘭盆会供養
七月	十七日・お施餓鬼法要
九月	彼岸中日・お塔婆供養
十月	十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月	十五日・釈尊涅槃会
四月	八日・釈尊降誕会
五月	二十日・立教開宗会
七月	二十七日・伊豆入道会
八月	七日・本尊御入道会
八月	七日・松葉谷法難会
八月	七日・龍ノ口法難会
九月	二十日・池上御入道会
九月	二十日・宗祖御入道会
十一月	十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商通安 厄位祈 運産祈 守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り（灌仏会）やお盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお破いや、年忌供養、祥月命日供養、月命日供養等も行っております。詳しくは事務所までご相談ください。

発行：日蓮宗水谷山宝清寺
住所：東京都あきる野市小川一〇一
電話：〇四二五八二一六六三
FAX：〇四二五八二一九三
インターネットホームページ
http://www.abouon-net.jp/ houeiji/
メールアドレス
housei@ac.aouon-net.jp